

職員からのひと言

令和8年10月

大変お待たせしました！
今回は3名の職員からひと言です。
最初のひと言は・・・読んでみてのお楽しみです。



検察庁は、検察官がその職務を行うための役所です。

ですから、まず、検察官がいます。

ただ、検察官は、その人数が限られていて、検察官の職務とされる仕事の全てを検察官だけでカバーすることはできません。また、役所の総務的な仕事とか、会計・経理とか、建物管理などといった役所の活動の基盤となる事務についても、検察官だけでそれを全て処理することができるだけの人数はいません。

そこで、検察庁には、そのような検察官の手に余る業務を行い、検察官の職務遂行に万全を期するため、検察事務官という立場の職員がいます。

また、検察官などが仕事で乗る自動車の運転を専門とする技官という立場の職員も、少数います。

それぞれの人数は、高知地検を例にとると、検察事務官は、検察官の7倍くらいいます。技官は、各庁に多くて数名です。

そして、各検察庁には、その長である検事正という役職の検察官と、検事正を補佐する次席検事という役職の検察官がいて、その下に、その他の検察官や検察事務官などがいます。

高知地検も、また同じです。

私は、高知地検の次席検事です。

高知地検では、私の部下の検察官が、検察事務官と共に、刑事事件の捜査や裁判の職務を遂行しています。

私は、検事正の指導を受けながら、部下検察官たちの職務の遂行を指導監督し、管理しています。

高知地検は、このような人員構成で、高知県内の犯罪の捜査や裁判の職務を行い、県民の生活を守ることに寄与しています。



検察広報官からひと言

私は、検察庁の仕事やその魅力を知っていただく広報の仕事をしています。

広報の仕事の1つとして、高知地検では、県内の学生（小・中・高・大学等）の方を対象に、実際に検察庁にお越しいただき、庁内見学等を行う「移動教室プログラム」や高知地検の職員が学校にお伺いして、検察庁の仕事などの説明をさせていただく「出前教室プログラム」を実施していますので、興味のある方は、当ホームページの広報のページをチェックしてみてください。

ところで、検察庁の仕事は、捜査部門（事件の捜査等）、検務部門（事件の受理手続、証拠品の受入、裁判の執行等）、事務局部門（総務、会計）の3つに分かれているのですが、私は、入庁してから20数年間、3部門の仕事をいろいろとまんべんなく経験してきました。

そして、現在、広報を担当しているのですが、私は口下手なので、自分にとっては今まで経験してきた仕事の中で一番難しく、毎回反省ばかりしています。

それでも、広報に参加してくださった方が「うんうん」と頷いて聞いてくださったり、笑顔を返してくださったりすると、これからも頑張ろうと思えますし、広報の仕事の大きな魅力だと思っています。

職員からのひと言を読んでくださっている皆様の中に、これから広報を通じてお会いする機会がある方がいるかもしれません。

その際には、つたないところがあるかもしれませんが、検察庁により興味を持っていただけると幸いです。



採用1年目の職員からひと言

私は、令和8年度に採用され、現在は捜査公判部門で勤務しています。

捜査公判部門では、検察官や立会事務官をバックアップするため、事件を処理する前のチェック業務や、弁護士・事件関係者の方との電話対応など、さまざまな業務を担当しています。入庁したばかりの頃は、専門用語が多く、仕事の種類もたくさんあったため、分からないことばかりでしたが、先輩方に一つ一つ教えていただきながら、少しずつできることが増えてきました。

仕事をしていてやりがいを感じるのは、自分がチェックした書類などからミスを見つけたときや、自分の仕事が誰かの役に立っていると感じたときです。目立つ仕事ではなくても、細かい確認や事務作業が事件を適切に処理することにつながっていると思うと、責任とやりがいを感じます。

職場は、分からないことを何でも聞くことができ、相談しやすい雰囲気です。1年目ということもあり、所属する部門だけでなく、他部門の職員の方々にも気にかけていただき、周囲の方々に支えてもらいながら仕事を覚えていきます。

また、夏はラフティング、冬は登山など、職員同士で交流できるイベントが多いことも高知地検の特徴だと思います。特に若手事務官同士は仲が良く、プライベートで遊びに行くなど、仕事とは違った場面で職員の方々との親睦を深めることができます。もちろん、参加は強制ではないため、自分の時間も大切にしながら楽しむことができます。

私の現在の部署では残業もほとんどなく、夏季休暇もしっかり取得できるため、仕事とプライベートの時間を両立しながら働くことができます。私はサウナが好きなので、仕事終わりや休みの日は四国中のサウナ施設に足を運んでいます。

まだまだ勉強することは多いですが、周囲の方々に支えていただきながら成長していける職場だと思っています。少しでも検察庁の仕事に興味を持っていただき、一緒に働くことができれば嬉しいです。

